

論文筆記試験 2025年松本大学大学院 総合経営研究科 選抜I期 出題の意図

本試験では、以下の二つの課題から一つを選択して論じる形式とした。

①修士論文研究計画を総合経営研究科で行うことの意味を、グローバルな視点とローカルな視点の両面から論じる。

②地方における外国人労働者の急増について、企業経営の観点から利点および課題を整理した上で、今後求められる新たな施策を論じる。

①では、受験者が自身の研究計画を、本研究科で学ぶ意義と結びつけて多角的に説明できるかを問うものである。具体的には、足元の地域課題に取り組み解決策を探るという「ローカルな視点」と、その研究を理論的に普遍化し、広く世界に通用する知見へとつなげる「グローバルな視点」の双方を統合し、自身の研究の価値を論理的に説明できる能力を評価する。

②では、人口構造の変化に伴う労働力減少に直面する日本において、地方企業が外国人労働者を受け入れることの意義を経営学の観点から整理できるかを問う。受け入れによるメリット（労働力の確保、組織の活性化等）を整理する一方で、雇用慣行や言語・文化の相違から生じるトラブルや法令違反といった課題を的確に捉えた上で、持続可能な組織運営に向けた有効かつ具体的な施策を提示する構想力を評価する。